

■ジャイアントパンダの基礎知識

●ジャイアントパンダ

(学名) : *Ailuropoda melanoleuca*

(英名) : Giant Panda

(中国語名) : 大熊猫

(分類) : 食肉目 クマ科(中国ではジャイアントパンダ科が一般的)



雅安パンダ保護研究センターのジャイアントパンダ

●生息地

中国の四川(シセン)省や陝西(センセイ)省, 甘肅(カンシュク, カンスー)省などの竹林が茂った標高1,200~3,900mの高い所に生息しています。

●特徴

(大きさ) : 体高70~80cm, 体長は120~150cm。体重は飼育下でオスは約120kg, メスは約100kg, 野生ではオスが約100kg, メスが約90kgです。

●生態

(暮らし) : 群れや家族を形成せず, 基本的に単独で行動します。他のクマ科の動物と異なり, 冬眠はしません。標高の高い寒冷な竹林に生息しているため, 寒さには強いのですが, 暑さには弱く, 飼育下では外の気温が25℃くらいを超えたら, 冷房の入った屋内の施設で管理しています。

(繁殖) : 5~7才くらいで成体になって, 繁殖を行うようになります。繁殖期は, 一年に一回だけで, 3~5月の間です。この期間中に, メスの妊娠の可能性が高まるのは, 1~3日だけです。その時にメスがオスとうまく交尾を行い妊娠すると, 3~5ヵ月後に1~2頭の子どもを産みます。赤ちゃんの体重は90~130gしかなく, 眼も開いておらず自分でミルクを飲むことができないため, 常に母親の世話を必要とします。

(えさ) : 主な食べ物は竹と笹で, 一日に一頭が10kg以上も食べます。野生のパンダは, 春は生息地に生えている筍(たけのこ)を好んで食べ, その他の季節は, 冷箭竹(レイゼンチク)など, ごくわずかな種類の竹と笹の葉, 枝, 茎を食べています。

パンダを飼育している日本の動物園では, 近郊, 近県の竹林から仕入れた孟宗竹(モウソウチク), 矢竹(ヤダケ), 真竹(マダケ)などを与えており, 好んで食べています。飼育下では, 竹や笹の他に, 人参やリンゴなども与えています。

(寿命) : 野生では15~20年程度といわれていますが, 北京動物園では30歳まで生きた例があります。

●生息数

野生での生息数 1864頭(2015年 中国政府発表)

■パンダの生息環境の保全と飼育施設での繁殖研究

現在、ジャイアントパンダの野生での生息数は子供も含めると 2000 頭足らず（弱）で、絶滅の危機に瀕しています。パンダを絶滅の危機から救うためには、生息環境の保全と飼育施設での繁殖研究を推進する取り組みが必要です。

中国政府は、1963 年から自然保護区を各地に設け、1978 年には四川省の臥龍（がりゅう）自然保護区の山岳地に、観察基地「五一棚」を設置し、野生パンダの本格的な調査を開始しました。中国は、生息地の保全と野生の個体群の研究を重視しています。

また、保護区にパンダ保護研究センターを設立し、人工繁殖の研究にも力を注ぎ、その結果近年では人工繁殖が確立し、たくさんのパンダが産まれるようになり、飼育下のパンダの野生復帰プロジェクトも行われるようになりました。

更に、国内の動物園に限らず、各国の動物園などとの交流を行い、世界規模でパンダの研究に力を注いでいます。

日本では、1972 年に上野動物園で中国との国交正常化記念にパンダを飼育したのが始まりです。その後、和歌山県の南紀白浜にあるアドベンチャーワールドが、1994 年に中国の四川省にある成都パンダ基地の日本支部として日中共同繁殖研究を始めるため、オス 1 頭・メス 1 頭を導入しました。

更に、2000 年に、1995 年の阪神淡路大震災で被災した神戸市民を元気付ける目的も兼ねて神戸市立王子動物園にオス 1 頭・メス 1 頭が日中共同繁殖研究のために、臥龍パンダ保護研究センターから来園しました。上野動物園やアドベンチャーワールドではパンダの繁殖に成功し、現在国内の 3 園館で合計 11 頭のパンダが飼育されています。（2021 年 5 月末日現在）



上野動物園のジャイアントパンダ